

平成27年度 会派調査研究報告書

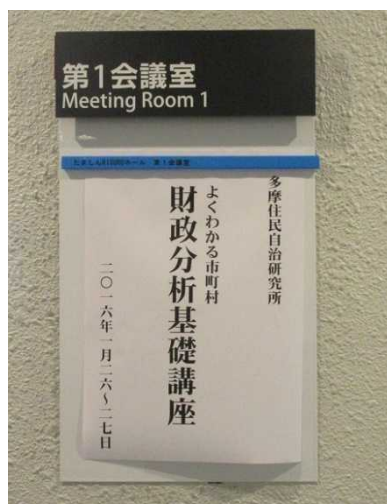
(視察先1箇所につき1枚)

会 派 名	日本共産党
事 業 名	「よくわかる市町村財政分析基礎講座」への参加
事 業 区 分	研究研修 調査

1 上田市での課題と研修・調査の目的

テーマが「よくわかる市町村財政分析」となっており、講師を務める方は著書を多数出している、上田市の財政分析並びに今後の財政運営を提案していくうえで参考になると考えて参加した。

2 実施概要



○写真は、研修会会場入り口



メイン講師の大和田一紘氏



個人名入りの修了証

実施日時	主催	研修会場
平成 28年1月 26日 13:00~19:30 二日目 1月27日 9:30~15:00	NPO 法人 多摩住民自治研究所	東京都立川市 たましんR I S U R Uホール

1 東京都立川市の概要

< 研修会参加のため省略 >

2 東京都立川市の特徴

< 研修会参加のため省略 >

3 研修事項について

久保田由夫氏が、2日間の日程に参加しました。

研修会のプログラムは次の通りです。

<p>第1講 自治体情報の電子化と公開性 ―誰でもできる財政分析</p> <p>地方分権一括法の施行(2000年4月1日)直、決算ホームページを中心とした財政情報の開示を推進する中で、「誰でもできる」として、自治体の財政情報は誰でも見られるようになりました。このように、自治体の財政情報は誰でも見られるようになりました。このように、自治体の財政情報は誰でも見られるようになりました。</p>
<p>第2講 市町村のふとこは ―歳入の仕組みを考える― 市町村の歳入の仕組みを考える。市町村の歳入の仕組みを考える。市町村の歳入の仕組みを考える。</p>
<p>第3講 議会・市民から見た税金の使われ方―歳入の仕組みを考える</p> <p>議会の役割として、市民から見た税金の使われ方を考える。議会の役割として、市民から見た税金の使われ方を考える。議会の役割として、市民から見た税金の使われ方を考える。</p>
<p>第4講 様々な「財政指標」の見方・読み方・使い方</p> <p>市町村の財政指標には、様々な「財政指標」があります。市町村の財政指標には、様々な「財政指標」があります。市町村の財政指標には、様々な「財政指標」があります。</p>
<p>第5講 地方交付税分析ツールとしての地方交付税算定会議</p> <p>地方交付税算定会議は、地方交付税の算定を行うための会議です。地方交付税算定会議は、地方交付税の算定を行うための会議です。地方交付税算定会議は、地方交付税の算定を行うための会議です。</p>
<p>第6講 わかりやすくわがまちの財政を伝える意味とその手法―自治体の財政分析の活用</p> <p>自治体の財政分析の結果を、わかりやすく伝えることは、自治体の財政を伝えるためには重要なことです。自治体の財政分析の結果を、わかりやすく伝えることは、自治体の財政を伝えるためには重要なことです。自治体の財政分析の結果を、わかりやすく伝えることは、自治体の財政を伝えるためには重要なことです。</p>
<p>日程表</p> <p>○1日目 第1講 13:00～14:00 第2講 14:15～15:45 第3講 16:00～17:00 第4講 17:15～17:30 ○2日目 第5講 9:00～12:00 第6講 13:00～13:30 第7講 15:00～15:00</p>

研修のやり方は、指定してあるテキスト「三訂版 習うより慣れるの市町村財政分析」を使って、講義と自身が所属している自治体の財政分析を持参した（私の場合は、市財政部から入手）資料に基づいて演算をしていくというやり方です。

・参加者全員がわかるように、係の人が参加者席を巡回してその場でわからないことがあれば教えてくれるという方式です。そのため、大型の計算機とパソコンを持ち込んでの研修となりました。初日はそのため、予定通り午後1時から夜7時30分までの研修会となりました。



写真は、演算している様子

4 研修会に参加して

講師の方ですが、大和田一紘さん（多摩住民自治研究所理事）：大和田さんは、著書をたくさん出している方で、ベテラン講師。私は何回か講演を聞いたことがあります。

石山雄貴さん（多摩住民自治研究所研究員）：20代の若手の方です。

の二人とスタッフのみなさんでした。

今回の研修会のメインテーマは

地方交付税制度について、しっかり学ぶこと

歳出の仕組みを学べば、行財政改革の手段が分かる。

1日目の講義（講師は、大和田一紘さん）

- ・行政・議会・市民による財政分析活動・財政白書づくりの5つのキーワード
- ・住民がまちの財政を学ぶ「心の準備」はできている
- ・今日の市町村財政危機や悪化の原因はどこにあるのか

- ・どこにどんな資料があれば自治体の財政が分かるのか
 - ・どのようにすれば自治体の財政が分かり、議員や市民が太刀打ちできるか
 - ・決算カードとは何か
 - ・財政状況資料集の公表のねらい
 - ・類似団体比較カードとは何か
 - ・自治体の「決算概況」からわかること
この後は、「歳入の仕組み」「歳出の仕組み」
- 2日目の講義（大和田一紘さんと石山雄貴さん）
- ・これからの財政運営と財政民主主義の課題
 - ・なぜ市町村議員が市民にわかりやすく財政を説明しなくてはならないのか

まとめ

- ・今回の講座に参加するにあたり、事前に資料を市財政部から入手しました。財政分析をする際に役立つ財政資料があることが分かりました。
- ・「習うより慣れるの市町村財政分析」というタイトルが分かったような気がします。財政資料のここの数字はここに反映されるということを理屈でなく、10数年分やってみると自らの市町村財政の分析ができるということです。講師は、この研修会のあとが大事だと言っている意味でもあります。
- ・さっそく、この研修会で勉強したことをH28年3月議会ではほんの一部ですが議会質問に生かしてみました。答弁を聞いて納得しました。